

主な質疑応答

Q. 今回の買収の EV・EBITDA マルチプルは何倍か。

A. オペレーター事業の年間の営業利益は 40 億円程度、これに減価償却費が 80 億円程度を足すと、EBITDA は約 120 億円となる。これに数十億円のコストシナジーを考慮すると、10～11 倍程度と見ている

Q. 今回の買収による営業利益への影響は。

A. 現在精査中のため、詳細はご容赦いただきたい。買収したオペレーター事業の営業利益 40 億円程度が上乘せになり、のれんの償却費等が出てくる可能性はあるが、現時点では決まっていない。

Q. ジャパンビバレッジ・グループ(JB)と組むことで、どのようなことができるか。

A. JB の強みである、より消費者に近いところで、すべての飲料サービスを提供するビジネスモデルに、当社の強みを組み合わせることで、オフィス等の場所で、新たなビジネスチャンスが広がると考えている。

Q. コストシナジーは見込めるのか。

A. 今回の買収により、自販機の台数が増えるため、新たな自販機を設置するための費用が抑制できるほか、メンテナンスや部品調達、共同配送でもシナジーが考えられる。これらをあわせれば数十億円のコスト削減が見込める。

Q. サントリー食品インターナショナルがJBの親会社になるが、JB と他の飲料メーカーとの取引は継続するのか。

A. 当社としては、継続してもらえると考えているし、誠意を持って、取引の継続をお願いしたい。

Q. 今回の買収によって、財務体質が悪化するのではないか。

A. ネットデットエクイティレシオは、一時的に 0.5 倍を上回るが、2016 年には 0.5 倍を下回る見通し。有利子負債の水準は、適正な範囲と考えている。